

特定外来生物（条件付）

アメリカザリガニ

軟甲綱 十脚目 アメリカザリガニ科 *Procambarus clarkii*

生態系被害防止
外来種リストの区分

緊急対策外来種

日本の侵略的外来種ワースト 100

世界の侵略的外来種ワースト 100

哺乳類

鳥類

昆虫類

両生類

魚類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

基礎情報

原産地

・アメリカ合衆国南部、ミシシッピ川河口周辺の湿地

現在の分布

- ・世界各地に導入され、分布を拡げている。
- ・国内では、すべての都道府県で生息が確認されている。全国約 125 万世帯で、約 600 万個体がペットとして飼われている(2021 年環境省推計値)。
- ・県内では三河地方の山間部や一部の市町村を除き、河川、池沼、水田などに広く定着している。

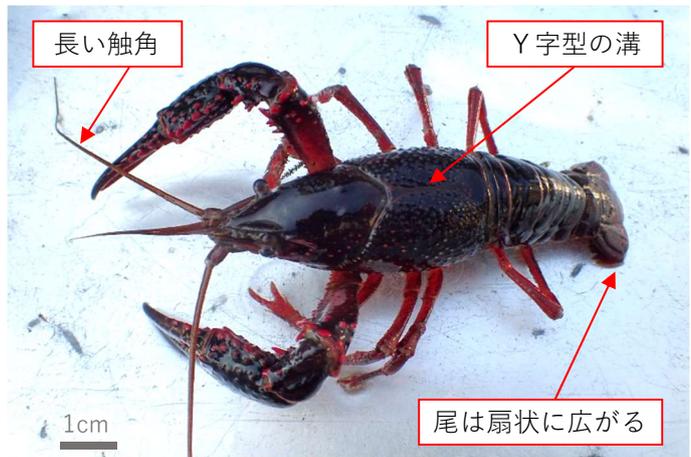


侵入の経緯

- ・1927 年にウシガエルの餌として神奈川県鎌倉市のウシガエル養殖場に 27 匹(20 匹とも言われる)が持ち込まれた。ウシガエル養殖場はその後閉鎖され、アメリカザリガニが付近に逃げ繁殖した。
- ・その後、分布域は急速に拡大し、1960 年代には北海道を除く全都府県に広がった。飼育個体や商品として保管していた個体の放流、逸出など、主に人為的な要因によって分布を拡大したとされている。

形態

- ・全長は通常 9cm 程、最大で 15cm 程度
- ・若齢個体は淡褐色、黄褐色、緑泥色で、成熟すると赤～赤褐色になる。
- ・歩脚は 5 対 10 本。一番前の脚は大きなハサミになり、強い力で挟むことができる。
- ・頭胸甲に Y 字型の溝がある。
- ・尾は扇状に広がる。
- ・長い触角をもつ。



若齢個体



ふ化直後の稚ザリガニ

生息環境

- ・河川、池沼をはじめ、農業水路や水田、ため池など、さまざまな水域に生息する。
- ・高水温、低酸素、水質汚濁にも強く、都市部の汚れた河川にも生息できる。
- ・基本的に水生だが、陸上を移動することもできる(海外では4日間で17km移動した研究事例あり)。

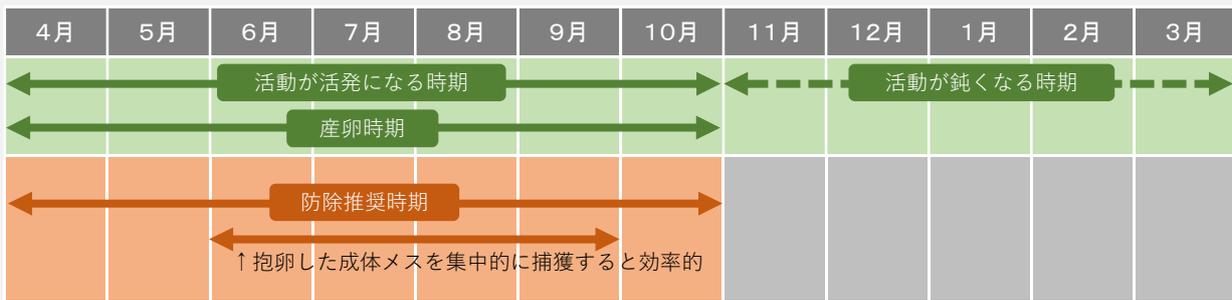
生態・ライフサイクル

- ・水深が浅く流れの緩い泥底に穴を掘って生息する。
- ・雑食性で、陸生植物の落ち葉、藻類や水草等の植物、水生昆虫、オタマジャクシ、魚類等の動物など、さまざまな動植物を捕食する。
- ・メスは産んだ卵を腹部に抱えて保護する。抱卵するメスは一年中見られるが、水温が18~25℃の温暖な時期に産卵する個体が多い。関東では、6月と9月に抱卵した個体の出現頻度が高くなり、秋に産卵した個体は抱卵したまま越冬して翌春に卵がふ化する。1回の産卵で抱く卵の数は200~1000個。
- ・寿命は4~5年。海外の研究例によると、野外では死亡率が高く、平均寿命は12カ月未満とされる。



ふ化直後の稚ザリガニを抱えたメス

【ライフサイクル・防除推奨時期】



類似種との識別ポイント

- ・類似種として他のザリガニ類がいるが、本県では確認されていない。赤くなった成熟個体の識別は容易だが、小さな若齢個体に似た種として、テナガエビの若齢個体、スジエビ、ヌマエビ類などがある。

類似種	識別のポイント
テナガエビ (在来種)	<ul style="list-style-type: none"> ・一番前の脚は細長い。 ・一番前より2番目の脚の方が長く、特に成長すると著しく長くなる。 ・胸の側面にm字型の模様がある。 
スジエビ (在来種)	<ul style="list-style-type: none"> ・一番前の脚は細長い。 ・一番前より2番目の脚の方が長い。 ・体節に横縞模様がある。 ・胸の側面にハの字を逆さにした模様がある。 
ヌマエビ類 (在来種・外来種)	<ul style="list-style-type: none"> ・一番前の脚は細い。 ・体に目立つ縞模様はない。 ・ヌマエビ、ヌカエビなどのヌマエビ科のエビは種類が多く、外来種も確認されている。 

哺乳類

鳥類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

影響・被害

- ・在来の水生植物、魚類(ミナミメダカ、ヤリタナゴ、ドジョウ、カワバタモロコなど)、水生昆虫類(トンボ類やゲンゴロウ類、水生カメムシ類など)、両生類(カエルの卵や幼生、サンショウウオ類の卵囊など)、貝類(カワニナ、タガイなど)を捕食する。
- ・水生植物が失われることで、水生動物の生息環境が奪われる。
- ・水を浄化する役目を果たしている水生植物が失われることで水域の富栄養化が進み、その結果、植物プランクトンが大繁殖し、水生生物相が大きく変化することがある。
- ・アメリカザリガニが媒介する病原菌によって、在来甲殻類の感染リスクが高まる。
- ・水田に巣穴を掘ることにより水田漏水を引き起こしたり、水田の畦に巣穴を掘って崩壊させたりするほか、水稲やジュンサイを食害するなど、農業に対してさまざまな悪影響をもたらす。

生息・被害の確認方法

- ・水際を踏査し、水底を徘徊する個体や巣穴を目視確認する。
- ・たも網によるすくい捕りや、設置が容易なかごワナ等を用いた捕獲確認を行う。
- ・既存の研究調査に関する文献や目撃情報をインターネットや図書館で探す。
- ・地域の住民や農業従事者、専門家などを対象に聞き取りやアンケート調査を行う。



小型かごワナによる捕獲

防除方法

- ・飼育個体が野外に放されないよう周知を徹底するとともに、すでに野外に定着している個体は、ワナなどを使って継続的に捕獲する。巣穴に潜む個体や、近くの水域から陸上移動してくる個体もあるため根絶は困難だが、防除を継続して低密度管理をすることで生態系を復元・保全できる。
- ・アメリカザリガニの個体数を減らすことに成功した場所では、水生植物の再生や水生昆虫類の増加など、アメリカザリガニが侵入する前の環境が回復してきている事例もある。

推奨時期

- ・水温が上がり活動が活発になる4～10月の防除が推奨される(水温が低い冬はほとんど活動しなくなる)。
- ・抱卵した成体メスが多い時期(6～9月頃)に実施すると、抱卵個体を集中的に捕獲できるため、効率的に減らすことができる。

具体的な防除方法

- ・たも網、さで網、かごワナ(アナゴワナ、カニカゴ、小型かごワナ)等により捕獲する。ワナは在来種も捕獲(混獲)されるため注意を要する。
- ・かごワナで捕獲しにくい小型個体は、「しば漬け」(スギの枝葉や養殖のり網を束ねて水草に見立てたワナ)での捕獲が有効である。
- ・捕獲した個体は引き取り手がない限り殺処理する。一般的には、一般廃棄物として廃棄(各自治体の基準に従う)することが多い。
- ・最終処理として、堆肥化の事例がある。また、十分に火を通すなど、適切に処理をすれば食用も可能である。



アナゴワナによる捕獲

【ワナの種類】

種類	アナゴワナ	しば漬け
形状		
概要	エサで誘引。設置・回収は容易。活動が活発な時期(4~10月)に適している。	エサは不要。設置・回収は容易。通年捕獲可能だが、冬は捕獲効率が落ちる。
設置場所	ため池・池沼・流れのゆるい河川	ため池・池沼・流れのゆるい河川
設置期間	前日に設置し、翌日~翌々日に確認する。エサはドッグフードや市販のねりエサ等。	設置期間の制限はない。
設置・回収の方法	ロープ等で岸に固定する。水草や転石があるような場所で、水底に着くように設置するとよい。水に入らなくても1人で設置・回収が可能。	ロープ等で岸に固定する。回収時は、たも網にしば漬け全体を入れてよく振るい、中に潜むザリガニ等を追い出す。
費用	2,000~3,000円程度。釣具屋・ネット通販でも購入可能。	自作可能。スギの枝葉であれば費用はほとんどかからない。
留意事項	混獲された在来種が溺れないよう、完全に水没させないように設置する。空のペットボトルを浮きの代わりにワナの中に入れてもよい。	在来のエビ類や水生昆虫、魚類の仔稚魚が混獲される可能性がある。

哺乳類

鳥類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

作業上の注意点等

- ・防除作業を行う前に、対象地の所有者・管理者の承諾を得る。必要に応じて、地域住民にも防除の目的や活動内容を周知する。
- ・野外に放したり、逃がしたりすることは禁止されているため、捕獲した個体を逃がさないよう注意が必要である。
- ・ハサミで手指を挟まれケガをするおそれがあるため、手でつかむ際には背中から持つようにし、保護手袋(軍手等)を着用する。
- ・触った後は必ず石けんなどを使って十分に手洗いをする。
- ・オオクチバスやコイなどはアメリカザリガニをエサとして食べている。ため池で外来魚のみの防除を行うと、天敵がいなくなりザリガニが大発生する可能性がある。ザリガニと外来魚の防除を総合的に実施するなど、生物相全体を考えながら防除を進めていくことが重要である。



背中から持つ

必要な法令上の手続き等

- ・愛知県漁業調整規則に基づく特別採捕許可(漁法や漁具により必要となる場合がある)

出典・参考資料

- ・侵入生物データベース > 日本の外来生物 > その他の動物 > アメリカザリガニ (国立研究開発法人 国立環境研究所) <https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/70320.html>
- ・日本の外来種対策 > 外来種問題を考える > 注目の外来種 > アメリカザリガニ (環境省 自然環境局) <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/amezari.html>
- ・特定外来生物同定マニュアル 甲殻類 (環境省 自然環境局) https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual/7hp_kokakurui.pdf
- ・アメリカザリガニ対策の手引き(環境省 自然環境局,2022・2023)
- ・条件付特定外来生物アメリカザリガニ防除マニュアル(環境省 自然環境局,2023)
- ・愛知県の外来種 ブルーデータブックあいち 2021 (愛知県,2021) p.94 アメリカザリガニ (中嶋清徳・斉藤知己)